

図書館だより

発行 多可町図書館

〒679-1133

多可郡多可町中区糀屋 434-11

TEL 0795(32)5170

FAX 0795(32)5171

<https://www.town.taka.lg.jp/library/>

日米の民間外交から発した「青い目の人形交流」に関わって20年余が経ちました。そんな中、27年前、アメリカ・ミッドルタウンの市民から多可町立中町南小学校に「新青い目の人形メリー」が贈られていたと伝えてくれた方がいました。国内でこのような例は聞いたことがありません。早速会いに出かけた私は、95年前日本に贈られ、今は私の元にある「青い目の人形メリー」と会わせたいと思いました。それから間もなく「二体の人形を出会わせ、人形が贈られた意味を伝えていきたい」、こんな企画が多

「語らない人形を語り継ぐこと」

作家 西村恭子



可町から届きました。

そして3月6日、那珂ふれあい館で開催されたのは「青い目の人形フォーラム」。中町南小学校のメリーと我が家のメリーは同館で初めて出会い、時を越えた故国の友として並びました。その光景は、長く関わってきた者として感慨深いものでありました。「全てに時あり」といいますが、このフォーラムは、10日前に起きたロシア軍のウクライナ侵攻報道が続く中での開催となり、日米で交わされた「人形」たちの事をどう語ればいいのか、私は自問し、やがて「この時だからこそ」と、思うに至りました。それは、「二つの国の市民が人形に託した「友

情と平和」の願いは95年を経ても少しも古びるものではなく、戦禍や災害を越えて残る人形たちの傍らには、いつも「語らない人形」を語り継ぎ、守ってきた多くの人々がいたという事実からでした。どんな時代にあっても「しあわせでありたい、平和でありたい」、これは人々の普遍の願いです。人形交流の発案者シドニー・ルイス・ギューリック博士は語っています。「互いの国の大切なものを理解し合い、時間と手間を掛けさえすれば戦争なんて起こり得ない」と。多可町に贈られた「メリー」が、これからも守られ、語り継がれることを願っています。

ことばの葉だより

子どもと本との出会いを助ける

松岡享子 編

松岡さんは1935年に神戸市で生まれます。算数は苦手でしたが、本を読むことが大好きな子どもでした。小学生時代は和歌山での疎開生活も体験。戦後再び神戸に戻り、神戸女学院大学英文学科へ進学します。

卒業後、家庭教師をしながら身の振り方を考えていたある日、「慶應義塾大学文学部図書館学科」生徒募集の小さな広告を見つけます。この時、図書館という言葉が頭の中でカチッと音を立て、天啓を受けたように感じ、入学します。ここで、将来を決定づける児童図書館員という職業を知ります。しかし、その募集は見つからず。先行きの見えないまま、慶應義塾大学の図書室に勤務します。そんな時、留学という転機が訪れ渡米、やがて修士の学位が取得できる目処が立った頃、アメリカの公立図書館で働く機会にも恵まれ、そこで1年間、密度の濃い時間を過ごします。そしてアメリカで学んだ児童サービスを日本でも早くやってみたいと、1963年の秋、帰国。いよいよ日本での活動が始まるのでした。

松岡さんが帰国したこの頃、日本では個人の自宅を開放し、子ども達が本に出会う場「家庭文庫」が多く作られました。そうした集まりに参加しながら児童文学を学び、大阪市立中央図書館で働く機会を得ます。しかし、3年ごとに異動が有り、児童サービスに関わる職場で働き続けられないという理由から約2年で退職します。

東京に戻った後、買い集めた300冊の本をもとに、家庭文庫を開館します。ある時、6畳の洋室に40人もの子どもがいて「おれ、人におぼれるよ」と叫ぶ子もいたとか。このように家庭文庫を運営しながら、翻訳活動続け、やがて4つの文庫が母体となる「東京こども図書館」を開館するのでした。この他にもユネスコのアジア共同出版計画事業、国際アンデルセン賞の選考委員など、本の楽しみを分かち合うための活動を終生続けられたのでした。

◆◆◇ 多可町図書館カレンダー ◇◆◇

— 4月 —

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

休館日

— 5月 —

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

— 6月 —

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

【こたえ】Ⅰ・・・④ Ⅱ・・・④ Ⅲ・・・③ Ⅳ・・・② Ⅴ・・・③

暮らしのなかに本があること、おとなが読んでやること、子どもを本好きにするのに、これ以外の、そして、これ以上の手だてはありません。

— 『子どもと本』(岩波書店)より —

松岡享子さんに関するクイズです。

Ⅰ. 大学時代に読んだ児童書で、「この本を読むには自分は年をとりすぎたな」と感じた作品は？

- ①『クマのプーさん』 ②『長くつ下のピッピ』
③『名探偵カッレくん』 ④『ナルニア国物語』

Ⅱ. 日本で初めて開設された「慶應義塾大学文学部図書館学科」の教壇にたったのは誰？

- ①大塚勇三 ②瀬田貞二
③村岡花子 ④渡辺茂男

Ⅲ. 松岡さんがつくった家庭文庫の名前は何？

- ①かつら文庫 ②鴨の子文庫
③松の実文庫 ④土屋児童文庫

Ⅳ. 初めて翻訳した作品は？

- ①『おやすみなさいフランス』
②『しろいうさぎとくろいうさぎ』
③『おさるとぼうしうり』
④『くまのコールテンくん』

Ⅴ. 『あたまをつかった小さなおばあさん』の続編が2019年に発売されました。その挿絵を担当したのは誰？

- ①大社玲子 ②林 明子
③降矢なな ④山脇百合子

【こたえ】は右下にあるよ

【参考文献】・『子どもと本』(岩波書店)、・『ことばの贈りもの』(東京子ども図書館)、・『えほんのせかいこどものせかい』(日本エディタースクール出版部)、・光文社 HP「不実な美女」たち—女性翻訳家の人生をたずねて— Vol.4 松岡享子さんに聞く



年始に行われた、恒例のかるた会。小学4年～6年生の「百人一首」には8名が参加し、学年別に分かれて源平戦を行いました。100枚すべての札を覚えていた子も3名おり、レベルの高い戦いが繰り広げられました。

また小学3年生までの「いろはかるた」には、11名が参加。未就学児の部では、大きな大きな「アンパンマンかるた」が人気で、知っているキャラクターを探して歩き回る、微笑ましい場面もありました。来年も来てくださいね。



みどりこども園 1/13



みどりこども園の4歳児25名、5歳児15名が図書館に来てくれました。おはなし会では、4歳児「おっぼのつり」や5歳児「ねずみのすもう」を聞いた後、絵本や紙芝居を楽しみました。紙芝居では、みんな元気よくクイズに答えてくれました。最後に図書館での説明を聞いた後、児童コーナーでお気に入りの本を見つけ、貸し出しを行いました。新しい本も



図書館 NEWS

— 1～3月 —



『友情の人形』展示

2/2～20



フレンドシップドール“青い目の人形”は、当時の多可郡に5体届けられ、中町南小学校では昭和26年頃までは残っていたようです。平成7年に、多可町と友好都市であるミドルタウンから2代目の「青い目の人形メリー」が贈られ、現在、大切に保管されています。

平和と友情の願いが込められた人形が多可町にも存在していることを、多くの方に知っていただこうと小学校から人形をお借りして、お雛様と一緒に飾りました。日本の人形の間に外国の人形を並べて展示したので、多くの方に興味をもってご覧いただきました。また、3/6(日)には那珂ふれあい館にてフォーラムを開催。今回の巻頭文も、講演いただいた西村恭子さんにご寄稿いただいています。

『図書館基本計画』策定

図書館では、多可町の人口や面積に応じた図書館サービスと市民の皆様に望まれる図書館のあり方を明確にするため、基本計画を策定中です。令和3年6月から図書館協議会委員11名により、先進地の視察や有識者の講演を参考にして、色々な意見を出し合い、そしてパブリックコメントをいただきながら、これからの図書館が、乳幼児から高齢者に至るまで、全ての市民の皆様に愛され、「生涯にわたって学び続ける舞台」となるようにとの思いを込めて策定作業を進めているところです。



『弓を引く人』



パウロ・コエーリョ／著
KADOKAWA (969 コ)
ジャンル：小説

『青い目の人形 メリーの旅』



西村恭子／著
神戸新聞総合出版センター
(319 二)
ジャンル：実用書

『風にみた夢』



大塚篤子／作
ポプラ社 (K913 才)
ジャンル：児童読み物

小さな村の大工、哲也のところへ、見知らぬ男が訪ねてきました。哲也のそばにいる少年は驚きました。その男が、哲也のことを国一番の弓の名人であると言ったからです。男は長い年月を弓の修行に費やし、いま完璧の域に達した技を披露し、それを名人の哲也に認めてもらいたいのです。しかし、哲也の弓が逆に男を圧倒します。自らのマインドをマスターし、魂の平安を保って矢を射るという哲也の弓を目の当たりにした男は、自分の修行がまだ道半ばであると悟り去っていきます。

昭和2年、一万二千七百三十九体の人形が「友好と平和の人形」としてバスポートを携え、日本に到着しました。これは当時アメリカで移民排斥運動が巻き起こり、この動きを憂慮した親日家のギューリック博士が呼びかけ、日本のひな祭りに合わせて贈ったものです。日本側は洪沢栄一が窓口となり58体の日本人形をアメリカに贈っています。しかし、両国ボランティアによる壮大な「人形交流」は、この後、戦時下において過酷な運命をたどることになります。

8千メートル級の山々が連なる、ヒマラヤ山脈。そのひとつR峰で父親が亡くなったのは、太郎がまだ赤ん坊の頃でした。小学5年生の春、父親の最期を知る人物に会うため、太郎は祖父と2人でネパールへ向かいます。

ガイドやコック、荷物を運ぶ人など、7人のスタッフの手を借り、幾日もかけて山道を登ります。ヒマラヤに住む人の生活道路ですが標高が高いため酸素も薄く、早々に弱音を吐いた太郎。しかし体が慣れてくると父親譲りの山好きぶりを発揮し、スタッフとの交流も楽しみます。

たどりついた村にいた山岳ガイド・パサンは小柄で柔和な老人でしたが、多くの登山者の命を守ってきたことが一目で分かりました。パサンに会うという目的を達成した後、太郎はさらに3日かけて岩山の頂上に登ることになります。そして頂上で、白馬のように美しいR峰を見ながら、父親の最期の姿を聞いたのでした。

生きる者を拒絶する荒々しさ、神々しいまでの美しさを併せ持つヒマラヤで、父親の足跡をたどりながら成長していく少年と、現地の人々の交流を温かい目線で描いた物語です。(あ)

「2022 年本屋大賞」

ノミネート作品

4月6日(水)に選考会が行われ、
受賞作が決定します

候補作家	作品名	出版社	候補作家	作品名	出版社
青山 美智子	赤と青のエスキース	PHP 研究所	朝井 リョウ	正欲	新潮社
知念 実希人	硝子の塔の殺人	実業之日本社	逢坂 冬馬	同志少女よ、敵を撃て	早川書房
米澤 穂信	黒牢城	KADOKAWA	町田 そのこ	星を掬う	中央公論新社
小田 雅久仁	残月記	双葉社	西 加奈子	夜が明ける	新潮社
一穂 ミチ	スモールワールズ	講談社	浅倉 秋成	六人の嘘つきな大学生	KADOKAWA



こと は
言の葉だより



機関車トーマス 編

— 『機関車トーマスと英国鉄道遺産』 より —

われるコミュニケーション能力も向上します。親子のスキンシップもコミュニケーション能力と深いつながりがありますので、まずは親子で絵本の世界を体験し、楽しんでほしいと思います。

それには図書館利用がお勧めです。私も利用させていただいているのですが、読みたい本が多可町図書館にない場合は、図書館の方が探してくださり、遠くの図書館からはるばる私の手元に届きます。多くの方に読まれ親しまれた心のこもった一冊です。読書は生きるための知恵やメッセージにもなりますが、心豊かな人生を歩むためにこれからも続けていきたい一つとなつていきます。

大人気となり、アニメ化の話が持ち上がった「レイルウェイ・シリーズ」ですが、最初、作者のイメージとは違っていたため、一度は却下されます。その後、自らがジオラマで撮影することを提案し、かつ必ず原作から映像化するという約束でテレビシリーズがスタートしたのでした。現在は3D化されていますが、トーマスたちは「役に立つ機関車」を目指して日々頑張り、世界の180以上の地域で放送されています。

【参考文献】
『機関車トーマスと英国鉄道遺産』（集英社）、『トーマスのひみつ100』（ポプラ社）、『原作出版75周年「きかんしゃトーマス展」』より

	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30		

【こたえ】Ⅰ・・① Ⅱ・・① Ⅲ・・④ Ⅳ・・③ Ⅴ・・①

特別おはなし会 5/14

こどもの読書週間に合わせ、おすすめの児童書の展示を行いました。5月14日には特別おはなし会を開催、参加してくれた子どもたちは語られる昔話や大型絵本の読み聞かせ、パネルシアターなどに耳を傾け楽しいひとときを過ごしました。読書週間の標語「ひとみキラキラ本にときどき」にちなみ、絵本カバーを使った手作りの万華鏡をプレゼントしました。



トライやる・ウィーク 6/1~5

八千代中学校の生徒3名に、図書館の仕事を体験してもらいました。今年は図書館まつりが週末にあったので、通常の図書館業務



以外にリサイクル広場の会場準備をしたり、たかTV「Bookガイド」の紹介本収録をしたりと大忙しの5日間でした。今回の活動で感じたことを今後の学校生活でも活かしてくださいね。



※今回、図書館だよりのロゴも書いてもらいました。

図書館まつり 6/4

3年ぶりに開催された図書館まつり。中町南小学校のメリーちゃんを一日図書館長に任命し、多くの方を玄関でお出迎えしてもらいました。



白バイや消防車の乗車体験、自転車シュミレーションでは交通ルールについて学びました。その他、みなみ児童館や子育てふれあいセンターの出張講座「プラバンづくり」、ミニ縁日などなどイベント盛りだくさんで、多くの方に楽しんでいただきました。ご来館ありがとうございました。



新しい雑誌入りました♪

雑誌の休・廃刊に伴い一部リニューアルしました。

※バックナンバーを所蔵した段階で利用が可能になります。



雑誌名	所蔵館
うかたま	多可
Ku:nel (クネル)	八千代
3分クッキング	八千代
STORY (ストーリー)	加美
チルチンびと	加美
BAILA (バィラ)	多可
Popteen (ポップティーン)	多可
やさい畑	八千代

ボランティア募集

現在、図書館ボランティア「サポーター・ねっと」には39名の方が登録されており、おはなし会や書架の整頓、また今回のような図書館まつりの際には企画、運営にも参加、ご協力をいただいています。

利用者の皆さんと一緒に楽しい図書館づくりを目指していますので、ぜひ、図書館にご興味のある方はご参加ください。詳しくは図書館まで。



Book Menu

『たそがれ大食堂』



坂井希久子／著

双葉社 (Fサカ)

ジャンル：小説

『もしも虫と話せたら』



ペズル／文

プレジデント社 (486へ)

ジャンル：実用書

今年度の課題図書です

『つくしちゃんとおねえちゃん』



いとうみく／作

福音館書店 (K913イ)

ジャンル：児童読み物

マルヨシ百貨店の最上階にある大食堂。昭和51年の創業以来、オムライス、ナポリタン、プリンなどを変わらぬ味で提供しています。マネージャーの美由起は、上顧客の前で大失態を犯し、大食堂へ異動させられたばかり。解雇されてもおかしくない中、異動を命じてくれた若社長には恩義を感じていました。しかし飲食業は未経験のため、売り上げアップの方法を見つけれずにいました。

ある日、若社長が新しい料理長・智子連れてきます。有名な老舗洋食店やフレンチレストランなどで修業したという智子は「古臭さを『昭和レトロ』と言い換えて、お粗末な料理の上に胡座をかかないで」と言い放ち、初日からメニューのてこ入れを提案します。

強引で現場をかき回しながらも、確かな腕を持つ智子のおかげで料理の質が上がり、新しい客を呼び寄せることにも成功。そんな時、料理長とマネージャーを替えた若社長の真意が明らかになり、スタッフに衝撃が走ります…。地方デパートの個性的な面々が起こす小さな奇跡に、エールを送りたくなる物語です。(あ)

地球上に昆虫が現れたのは、人類が誕生するよりもはるか昔、約5億年前のことです。種の数においても哺乳類の約6千種に対し約百万種も存在しており、昆虫こそが地球上で最も繁栄している生き物なのです。

生き方を見失って故郷へ帰った太郎は、懐かしい夏の雑木林でしゃべる虫たちと出会います。普段はねが短く単独で行動するサバクトビバッタは、食べ物が無い環境下ではねを長くし、群れで移動しながら食べ物を採るスタイルに生き方を変える、つまり、周りを変えるのではなく、自分を変えるという選択をするのだと言います。

人間に飼われるカイコガは、生きるためのすべてを人間に依存しているの、えさの葉につかまる握力さえ失っており、頼りになる人がそばにいるのはリスクでもあると教えます。

常に死と隣り合わせの虫たちは、今この瞬間を夢中で生きているからこそ、過去を悔やまず、未来を不安がらない。それこそが本当の幸せなのだと言われながら、息抜きをする大切さをも説きながら、人生に前向きになれるような太郎を雑木林の出口へと送り出してくれるのです。(り)

小学2年生のつくしちゃん、二つ年上で4年生のかえでお姉ちゃんへの思いを、日々の生活とおして綴ったお話です。

つくしちゃんにとって、かえでお姉ちゃんは、自慢のお姉ちゃんです。頭が良くて、物知りで、本を沢山読んでいて、お買い物へ行っても、お母さんより早くレジの計算ができます。そして、ピアノでモーツァルトが弾けて、学校の音楽会では、伴奏をするほどピアノが上手です。

しかし、お姉ちゃんは、ちょっと怒りっぽくて、威張りんぼうで、意地悪なところがあります。でも、つくしちゃんにとっては、大好きで、自慢のお姉ちゃんです。

国語の時間、つくしちゃんが、窓の外の運動場ばかり見ていると、先生に「何か、外におもしろいものがありますか？」と怒られます。気になっていたのは、ドッジボールをしているお姉ちゃん、足が不自由なお姉ちゃんは、すぐにボールに当たるし、パスももらえず、ボールに触ることすらできない様子だったのです。

そんなつくしちゃんの姉への思いを描いた、姉妹愛のあふれるお話です。(と)

発行 多可町図書館

〒679-1133

多可郡多可町中区糀屋 434-11

TEL 0795(32)5170

FAX 0795(32)5171

<https://www.town.taka.lg.jp/library/>

図書館だより

「選書は図書館の命」

多可町地域共生推進協議会

会長 小嶋 明

新刊コーナーの前にしやがみこんだ時、目の前の背表紙『ケアとまちづくり、ときどきアート』にくぎづけになりました。もしやあの人ではと著者に目をやると、共同著者3名の内に思った通り「だいかい文庫」(豊岡市)主宰の守本陽一医師の名前があったのです。地域共生推進協議会が10月18日に開く地域づくり講演会の講師です。なんとというタイミングのよい選書でしょう。ここでいうケアとアートの融合がコミュニティデザイン。その力が重要と説く守本医師は、自らもデザイナーだといいます。

地域医療を進めるには診察室で待つばかりではなく外へ出ることで、屋台カフェを引いてイベント会場を回るなど、いっしょに屋台が街の保健室になっていました。さらに拠点が必要と、商店街にシェア図書館を開設、いまでは全国に広がり、その数は20を超えています。40センチ四方の木箱が月2400円で貸し出され、契約者は木箱に本を並べ貸し出すのです。店番ができ、木箱から様々な交流が生まれ居場所を形成しています。引きこもっていた人が、ここの交流によって抜け出せた例もあるのです。豊岡市には、年間約3万円もする木箱のオーナーが50人を数えます。それを確かめ

ねました。そこで社会的処方という概念を初めて教わりました。高品質な図書館サービスに選書があります。是非とも読んで欲しい本、あの方に薦めたい本、要はただ利用者の読書傾向が把握できているからです。多可町図書館はこの20年間コミュニティデザインどころではなかったのですが、職員のモチベーションは高く、高品質のサービスを提供してきました。数年後に新しい図書館が生涯まちづくりプラザの中核施設になります。そこで問われるのがコミュニティデザイン力です。選書は図書館の命。専門職ならではの発想で本と人、本と街、本と本をつなぐ串でもあつて欲しいと思います。



こと は 言の葉だより

妖怪の姿を今に伝える

水木しげる 編



今年は生誕100年。ゲゲゲの鬼太郎でおなじみの水木しげる(本名:武良茂)さんは、1922年大阪で生まれます。2才の時、父の故郷、鳥取県の境港に移り住み、幼少期を過ごします。当時、家にお手伝いに来ていた「のんのんばあ」と呼ばれていたおばあさんから、おばけや妖怪など地獄の話をたくさん聞いたそうで、それが後の水木しげるを形作ります。

とにかく何かひとつのことに熱中すると、とことんまでやり、一度始めると簡単にはやめられない性格だったようです。幼い頃から紙と鉛筆かクレヨンがあれば絵を描いて飽きず、父もこの特技を伸ばそうと水彩や油絵の道具を買い与えます。高等小学校時代には、新聞に「天才少年画家現わる」との記事が出るほどでした。

卒業後、就職するも失敗続きですぐにクビに。絵で食べていければと美術教室に通うなどして道を模索しますが、太平洋戦争が勃発。21才の時に徴兵され、南方へと出撃することになるのです。戦地では片腕を無くしたりマラリアにかかったりと、生死の境をさまよいます。

終戦を迎え奇跡的に生還してからは、好きな絵を描いて生きていくのだと決意します。手始めに神戸でアパートを運営しながら紙芝居作家として活動を始めますが、テレビの普及によって紙芝居業界は衰退。そこで貸本漫画に望みを託して上京します。しかし、もらえる原稿料はわずか。貧乏神に取り憑かれていたのかもしれないと後に振り返っています。それでもがむしゃらに働き続け、やがて『テレビくん』や『ゲゲゲの鬼太郎』が大ヒット、売れっ子漫画家へと駆け上がっていったのです。

それ以降、多くの連載を抱え多忙を極めます。そのため、いつしか戦地で交流したニューギニアの友たちとのゆったりした暮らしに憧れるのですが、2015年、93才で永眠する晩年までエッセイや漫画の執筆を続け、生涯現役を貫いたのです。

怖いもの見たさ、臆病なくせに怪談や幽霊の話が好きなのは、いまでも昔も変わらない子どもの性質である。洋の東西を問わず続々と登場する、姿かたちも魅惑的な妖怪たちは、子どもたちだけでなく大人まで虜にした。「大人が読むに耐えうる漫画を描く」という水木の一貫した姿勢が、世の中に受入れられたのだ。

— 『pen BOOKS 水木しげる大研究。』より —

水木しげるさんに関するクイズです。

- I. 水木さんが最も愛読したドイツの人物は?
①ゲーテ ②ニーチェ ③ヘッセ ④リルケ
- II. 水木漫画では落胆したり感嘆したりした時によく出てくる擬音語があります。それはどれ?
①「アハッ」 ②「ナハッ」
③「ハハッ」 ④「フハッ」
- III. 「水木しげるロード」(境港市)にある妖怪ブロンズ像の数は何体?
①166体 ②177体 ③188体 ④199体
- IV. ペンネームである水木の由来は?
①住んでいた町の名前が水木通りだったから
②花水木という花が好きだったから
③水や木には精霊が宿ると信じていたから
④母方の名字が水木だったから
- V. 世界妖怪会議が平成8年に開催されました。その時ともに壇上で妖怪について語った人物とは?
①京極夏彦 ②夢枕獏
③宮部みゆき ④三輪明宏

【こたえ】は右下にあるよ

おまけ: 自分の名前を「しげる」とうまく呼べず「げげる」と言っていたことから、あだ名が「ゲゲ」。それが「ゲゲゲ」の由来のようです。

【参考文献】『水木サンの幸福論』(日本経済新聞社)、『MOE 2022年9月号』、『水木しげる のんのん人生』(大和書房)、『pen BOOKS 水木しげる大研究。』(CCCメディアハウス)

◆◆◆ 多可町図書館カレンダー ◆◆◆

— 10月 —							— 11月 —							— 12月 —						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1			1	2	3	4	5					1	2	3
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24
23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31
30	31																			
							休館日													

【こたえ】 I・・・① II・・・④ III・・・② IV・・・① V・・・①

キッズランドかみ

4才児：7/1

5才児：9/8

7月には4歳児が、9月には5歳児が図書館を訪問してくれました。図書館員による絵本の読み聞かせなどのおはなしを聞いたあとはお楽しみの本選びタイム。たくさんある本の中から、あっという間にお気に入りの本を見つけて借りる子、まよってしまってなかなか決められない子と様々でしたが、最後は自分の納得のいく1冊を選んでうれしそうに帰っていきました。またのご来館をお待ちしています。



手づくり絵本講座 8/4

夏の恒例行事「手づくり絵本講座」を開催し、小学1年生～6年生16人が参加しました。



手づくり絵本作家の村上祐喜子さんの指導で、今年は、ひっぱると違う絵が現れる、2種類の、のびるカード作りに挑戦。ひっぱる前と後ではまったく違う印象になるため、どんな絵を描こうかと頭を悩ませる姿も見られましたが、アイデアが浮かぶと、勢いよく描き込んでいました。夏らしい、個性的な作品ができあがり、子どもたちは満足そうな表情を浮かべていました。



マイナンバーカードで本が借りられます

まずは、カウンターでご登録ください

☆「としょかんカード」をすでにお持ちの方

「としょかんカード」と「マイナンバーカード」を持って、カウンターで登録処理をうけてください。「ICカードリーダー」にかざし、読み込むだけですぐに利用できます。

☆「としょかんカード」をお持ちでない方

図書館の利用登録手続きが必要です。申込書に必要事項を記入し、カウンターへ提出してください。その際に、「マイナンバーカード」での利用希望の旨を伝え、「マイナンバーカード」をご提示いただき、「ICカードリーダー」にかざすだけで登録終了です。

図書館ではマイナンバーは一切利用しません

ICチップ内の「利用者証明用電子証明書」に記載されている発行番号（シリアルコード）を読み取り、としょかんカードの番号と連携させています。ICチップ内のマイナンバーや住所、氏名などの個人情報は一切使用しません。

※マイナンバーカードを更新された時は、図書館でも利用者更新が必要になります。

図書館 NEWS

— 7～9月 —

ビブリンピック

7/21～8/31

夏休み期間に開催されたビブリンピック。今年は、幼児部門30冊、小学生部門50冊に加えて新しく中学生部門15冊が登場！それぞれに与えられた冊数を達成するために、夏の暑い日でも、図書館に来館し、カートがいっぱいになるまで本選びを楽しんでいる挑戦者を見かけました。今年の参加者は、352名。達成者は、幼児部門57名、小学生部門99名、中学生部門19名、合計175名でした。おめでとうございます。楽しそうに台紙にシールを貼る姿が印象的でした。



トライやる・ウィーク

9/3～4、7～9



今年度は6月（八千代中の生徒3名）と9月（中町中の生徒2名と加美中の生徒2名の計4名）の2回に分けてトライやる生を受入れました。貸出・返却業務以外にも本をコーティングする装備体験や学校に配布しているチラシにおすすり本を紹介するなど、日頃あまり目にすることのない図書業務も体験してもらいました。

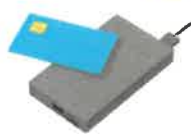
※図書館だよりのタイトルロゴも4人協力して書いてもらいました。

※利用者証明用電子証明付きの「マイナンバーカード」のみ利用できます。

※図書館ではマイナンバーカードの交付申請はできません。

マイナンバーカードでの貸出には事前の手続きが必要です。ご注意ください。

近隣の図書館で同様に「マイナンバーカード」の登録をすれば、共通の「としょかんカード」として活用できます。



明治の終わり頃、浅草の歓楽街にある燕屋の前に、生後七ヶ月ぐらいの赤ん坊が捨てられていました。燕屋は、花屋を装っていましたが、実は、遊女を七、八人抱える置屋でした。赤子を亡くしたばかりの千代は、その捨て子が愛おしく感じて、店や仲間の反対を押し切って、自分の子として育てる決心をします。

遊女の中には、一級の芸事を身につけている者もあり、千代のたつての願ひもあつて、雪と名付けられたその子どもの教育係を引き受けました。そして、人懐っこい雪は、成長するにつれて皆に可愛がられ、いつの間にか、皆が、雪の幸せを心から願うようになっていました。

そんな時、浅草を管轄する警察の中村が、非合法に営業を行う燕屋の弱みにつけ込んで、賄賂を要求し、燕屋を食い物にし始めます。

雪のことで、負い目を感じていた千代は、評判の悪い中村が来ると、進んで相手をするようになります。しかし、ある日、燕屋の存続に関わる大変な事件が起こってしまします。

明治、大正と、東京の下町で、一生懸命生き抜こうとする母子の愛情物語です。（と）

人間は、誰もが老います。抗ってみても、若返ることはできません。しかし著者は「じつは老いることのできる生物は少ない」といいます。セミやサケのように、多くの生物は、子孫を残すすぐに寿命を終えます。また自然界で暮らす野生動物も、体力が落ちれば、天敵から逃げ切れなかったり、厳しい環境を克服できなかったりして、老いることなく命を落とすのです。

では、なぜ人間は老いることができるのでしょうか。それには「知能」が深く関係しています。「本能」により、生まれてすぐに必要な行動を取る昆虫に対し、人間は、年長者から教わらなければ何もできません。その代わり、生きるための手段として高度な知能を発達させました。知能を正しく使うには、知識と経験が必要です。それを誰よりも持っているのが、年長者なのです。

人間は、強い生き物ではありません。しかし助け合い、年寄りの知恵を活かすことで生き抜き、結果、私たちは「長生き」を手に入れたのです。これを読むと、老いることのできる生が、とても貴重なものを感じられます。（あ）

いなかの小さな家に住むふたりの娘さんは、自分たちで作った人形を町のおもちゃ屋へ売って暮らしたてていました。一年でいけば忙しいクリスマス前のころ、家の床下に住むトムテのいたずらむすこヌツセを、娘さんたちはそうとは知らず、町のおもちゃ屋へ送ってしまします。

おもちゃ屋に着いたヌツセは、ぬいぐるみのクマや、汽車や自動車、クリスマスツリーといっしょに、ショーウィンドウに飾られることになりました。人が見ているときは本物の人形のようにじつとしていなければなりません。大勢の人に見られて疲れたヌツセは、つい身動きしてしましますが、そのおかげで病気のスバンテという男の子と仲良しになります。屋間ひとりぼっちだったスバンテは、ヌツセと過ごすうちに元気になるります。しかし、ヌツセが家に帰りたい気持ちはなくありません。ヌツセはなんとかスバンテに友だちができるよう奔走します。

人々にしあわせをもたらすトムテにふさわしい立派な行いをしたヌツセは、迎えに来てくれたクラスとともに、懐かしいいなかの家族のもとへ帰りつくのでした。（り）

Book Menu

『浅草ルンタッタ』



劇団ひとり／著

幻冬舎（Fケキ）
ジャンル：小説

『生き物が老いるということ』



稲垣栄洋／著

中央公論新社（461イ）
ジャンル：実用書

『おもちゃ屋へいったトムテ』



エルサ・ベスコフ／作

福音館書店（K949へ）
ジャンル：児童読み物

図書館だより

発行 多可町図書館

〒679-1133

多可郡多可町中区糺屋 434-11

TEL 0795(32)5170

FAX 0795(32)5171

<https://www.town.taka.lg.jp/library/>

小学生の頃、生家は西脇市で織物業を営んでいました。毎日の織機はたの音は騒音ではなく、生活を刻む音でした。家から歩いて50歩の近さに工場があり2階には若い娘さん達が住み込みで働いていました。いつも家族には内緒で2階で時を過ごすが日課でした。従業員さんの一人がいつも雑誌を読んでいました。今でいう週刊誌のようなものだったと思います。私は、雑誌に連載されている子ども向けのコーナーを見るのが楽しみでした。題名は忘れたのですが、

「本は翼の如く」

てくてく工房

足立美和子

幾多の苦難を希望に変えていくという内容だったと思います。小学生と言えは揺れ動く時期でもあります。その時に読んで感じた瑞々しい感動は今でも私の心を捉えて離しません。

時は流れ、就職、結婚、子育てが終わった頃、私と夫は「子どもの体験教室」を開くことになりました。これからの時代に子どもたちに大切なことは「生きる力」であると考えたからです。どんな時代になっても受け入れ、生きていけるたくましさが必要められる時代がきつと来ると考えました。10年を研修期間として諸外国の教育現場を訪れて実地に見学しました。発展途上国を含め、インターナショナルスクール、シ

ユタイナー学校、各国の大学など、子どもや先生方との出会いは私達の大きな原動力となりました。

何より大切にしたいことは本を読むこと、そして自然体験でした。天変地異の不条理、さまざまな喜びや困難さえも追体験できる本の世界は無限です。また、四季に沿った自然体験での働きは子ども心に豊かな力を与えてくれます。「知ることは感じることの半分も重要ではない」とはレイチエル・カーソンの言葉です。本は、翼の如く生き生きと子どもの心に根付き、自然の中で体験した感動は、生涯子どもを支えていく力になっていくと確信しています。



言の葉だより

マンガ映画は失われた可能性を描くもの

宮崎 駿 編

2022年秋、「愛・地球博」(愛知県)の跡地にオープンしたジブリパーク。そのジブリを設立した日本を代表するアニメーション作家の宮崎駿さんは、1941年、東京都に生まれました。そんな宮崎さんがマンガ家になりたいと思ったのは高校の時だったそうです。けれどもそのマンガに見切りをつけ、1963年、東映動画に入社。そこで初参加したのが「わんわん忠臣蔵」で、NHKの朝ドラ「なつぞら」の監修にも携わった小田部洋一とも出会うのでした。その後も高畑勲らと共に「太陽の王子 ホルスの大冒険」を作り上げるなど、主に劇場用長編を手がけます。

1971年、アストリッド・リンドグレンの『長くつ下のピッピ』をやってみないかという誘いに惹かれ、高畑、小田部らと共に東映動画を退職、他社に移籍します。ところが、その企画は、許可が下りず断念することになります。しかし、その企画立案のアイディアは後々「パンダコパンダ」「アルプスの少女ハイジ」「魔女の宅急便」などで活かされることとなります。

いくつかの会社を経たのち、1984年に個人事務所の【二馬力】を設立、そして翌1985年、高畑らとタッグをくんで【スタジオジブリ】を設立しました。そこでは「天空の城ラピュタ」や「となりのトトロ」など、次々と大ヒット作品を生み出し、「千と千尋の神隠し」では、日本映画としては39年ぶりにベルリン国際映画祭で金熊賞を受賞しています。

「生まれてきてよかったんだ、と子どもにエールを送るのが児童文学」だと語る宮崎さんは、それが自らの創作のルーツとして、児童書の装丁画を描いたり、それらを原作にしたアニメーション作品を多数手がけられています。

僕は観たいものを作りたい。僕は、マンガ映画は、なによりも心を解きほぐしてくれて、愉快になったり、すがすがしい気持ちにしてくれるものとおもってる。

— 『続・風の帰る場所』より —

宮崎駿さんに関連するクイズです。

- I. 「ジブリ」とはイタリア語で「サハラ砂漠に吹く〇〇」。〇〇とは？
①黄砂 ②突風 ③熱風 ④砂嵐
- II. 愛知県にあるジブリパーク。その中にある短編映画を楽しむ映像展示室の名前は？
①アポロン座 ②オリオン座
③ベガ座 ④ペルセウス座
- III. 「ジブリの大倉庫」の建物は元々何の建物だったでしょうか。
①温水プール ②植物園
③映画館 ④スケート場
- IV. 宮崎さんが映画にできないだろうかと考えている絵本は？
①『くまの子ウーフ』 ②『マーシャとくま』
③『くまのコールテンくん』 ④『3びきのくま』
- V. 宮崎さんが偉大な人だと感じている人物とは？
①椋鳩十 ②灰谷健次郎
③新美南吉 ④宮沢賢治
- VI. 「天空の城ラピュタ」に登場する物語は何？
①『ガリバー旅行記』 ②『十五少年漂流記』
③『はてしない物語』 ④『宝島』

【こたえ】は右下にあるよ

【参考文献】『MOE』(2021年11月号)、(2022年12月号)、『天才の思考』鈴木敏夫／著 文藝春秋、『三鷹の森 ジブリ美術館』徳間書店、『風の帰る場所』『続・風の帰る場所』宮崎駿／著 ロッキング・オン

◆◆◆ 多可町図書館カレンダー ◆◆◆

— 1月 —

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

休館日

— 2月 —

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

— 3月 —

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

【こたえ】 I・・・③ II・・・② III・・・① IV・・・④ V・・・④ VI・・・①

読み聞かせ講座

10/27

講師：小栗栖真弓

今年度の読み聞かせ講座は、「子どもの心を育てるものー“幸せ”の体験ー」と題してお話していただきました。絵本は子どもがはじめて出会う本です。長く読み継がれてきた本物にふれ、数ある絵本の中から良いものを選ぶことが大切です。おとなも楽しんで読むことで、絵本を通して子どもと喜びや楽しみを分かち合えるという内容に、参加者は熱心に耳を傾けていました。



中学生理科自由研究作品展

10/13～10/27



今年も昨年度に続き、この夏、市内の3中学の生徒が取り組んだ理科の自由研究作品展が開催されました。展示されたのは優秀作に選ばれた26点。毎回のことながらユニークな視点でテーマを見つけ、それを独自の方法で実験し、写真や図を取り入れながらわかりやすく説明された力作ぞろいでした。

雑誌付録抽選会

12/10

11/2～12/4の期間中に20冊借りられた方を対象に雑誌の付録抽選会の応募券を配布しました。応募総数239件。12/10に抽選会を行い56名の方に付録をプレゼントしました。



【表紙の人】 足立美和子さん



今回の図書館だよりの巻頭文は、令和4年度の図書館イベント「ウォルドルフ人形づくり」の講師をお願いした足立美和子さんです。1992年、これからの新しい時代、子どもたちに大切なことは「生きる力」を育むことであると考え、自然体験を中心に芸術体験も取り入れた、子どもの体験教室「てくてく工房」をご夫婦で設立されました。また、子どもの分身でもある人形は子どもの成長に欠かせないと考え、シュタイナー教育を背景にした「ウォルドルフ人形教室」も開催するなどして活動されています。



図書館 NEWS

— 10～12月 —

ストーリーテリング講座

10/14、11/11、12/23

講師：小栗栖真弓

全3回で行われたストーリーテリングの講座。子どもたちは、おはなしを通していろんな体験をイメージし楽しむことで心を作りあげていきます。そのため私たち大人は、どんな本を選ぶかが大切になります。中でも昔話は、語り継がれることにより無駄が省かれ、子どもたちが理解しやすい特徴があります。そして、昔話は子どもたちに、安心感や人生に立ち向かう勇気を与えてくれます。

講座をとおして、改めておはなしの魅力について学びました。

～おすすめ本&虹色の本棚～

10/27～11/27

読書週間(10/27～11/9)にあわせて、2つの特集コーナーを設置しました。ひとつは毎年行っているボランティアグループ【サポ-ド-ねっと】の皆さんに協力してもらい、各自のおすすめ本にコメントカードを添えて展示しました。



もうひとつは初の試みとして、3市1町(西脇市・加東市・加西市・多可町)で「虹色の本棚」という同じテーマで同時に企画展示しました。本の装丁の色で虹を表現したり、タイトルや中身が虹の7色に関連するものを選ぶなどして、各館がそれぞれにイメージする特集コーナーができあがり、多くの方に手に取っていただきました。



『プロジェクト・ヘイル・メアリー 上下』
ヘイル・メアリー号は、既存の化学エンジン、あるいは未来の実用化をめざし研究されていたようなエンジンをも搭載していません。すなわち、地球外生物であるアストロファージの質量変換を、その推進力としているのです。アストロファージは恒星のエネルギーを取り込み増殖する生命体で、それに汚染された太陽は、いまやどんどん暗くなり、低温になりゆく地球上の全生命が絶滅するまで残された時間は30年しかないのです。

野菜づくりで心豊かな健康な生活を手に入れてみませんか。野菜づくりは、大変だと思われるかもしれませんが、始めてみると、とても魅力的なものです。自分でまいた種が、発芽して、成長して、りっぱな野菜が育っていくのを見ると、皆さんは、きつとワクワクしてうれしくなると思います。そして、収穫のときには、最高の気分です。自分の育てた取れたての野菜を美味しく食べることが出来ます。

『月神の統べる森で』
すべての自然には神(カムイ)が宿り、人はその恵みによって生かされている、と信じられていた時代。森の中の小さな家で、父と兄、姉に大切に育てられた13歳のポイシユマは、そんなカムイたちの姿を見、話すことができる不思議な力を持っていました。

Book Menu



『プロジェクト・ヘイル・メアリー 上下』



アンディ・ウィアー／著
早川書房(933ウ)
ジャンル：小説

『おいしく育てる野菜づくり』

- 失敗しないコツと対策 -



五十嵐透／著
ナツメ社(626イ)
ジャンル：実用書

『月神の統べる森で』



たつみや章／作
講談社(K913タ)
ジャンル：児童書